

學子藝云雜誌

二

17
21



57

學藝雜誌



學藝社

第十二號

(驛遞局認可)

明治十八年八月廿八日發兌

禁賣買



門 187
21

目錄

- 永遠開進論
- 觀蜘蛛記
- 詩
- 以上

學藝雜誌

川上英
山樵稿
數集

昭和十八年八月廿八日發行

定價

學藝雜誌第十二號

論說

○ 永遠開進論

第二章 刺衝之力

川上英

前章ニ文武ノ合同ヲ説テ本邦氣風ノ傾向ヲ探リ長短相補
 フノ必要ヲ述ヘタリ故ニ余ハ自然ノ子係ヲ以テ茲ニ刺衝
 力ノ影響奈何ヲ考ヘ前途方向ノ針路ヲ學ハントス抑モ我
 國ノ文明ハ之ヲ中ニ胚胎シタルノ成果ニアラスシテ遠シ
 歐米ニ輸入シタルモノナリトハ蓋シ天下ガ共ニ信スル所
 ナリ然レヒ人ノ思考ハ常ニ一ナラス異説ノアルヘカラス
 ル所ニ異説ヲ生シ生セサルヘカラル所ニ却テ之ヲ生セサ



ルハ吾人カ親シ經驗スル所ナレハ如何ナル明白ノ事實ト
雖時ニ或ハ異論ナキヲ保シ難シ左レハ我國ノ文明ハ飽迄
之ヲ歐米ニ輸入シタルニアラス宇宙泰運ノ期將ニ到着セ
ントスルノ傾向ニ至リシヲ以テ我國歩モ亦タ今日世運ノ
方向ニ隨伴シ烏兔勿々自カラ文明ノ階段ニ入リタルナリ
ト云ハンカ我輩モ亦タ實際如此ナランヲ欲セサルニアラ
ス之ヲ欲シテ未タ同意スル能ハサルモノハ眞理ノ命ナリ
學者ノ本分ナリ豈曲ケテ背理ノ論鋒ニ得々スルヲ得ンヤ
固ヨリ簡單ナル牽強附會ノ論毫モ予輩ノ所説ヲ輕重スル
ニ足ラスト雖茲ニ論者カ意向ヲ推究簡言セハ唯我獨尊頑
固武子ノ御氣象ト言フヘキノミ末タ喋々敷眞面目ナル辨
駁ヲ爲スヲ要セス文明ノ力ニハ武士風モ亦タ顔色ナシ歐

米ハ文明ノ大泉ニシテ日月ニ文明ノ器具ヲ湧出シ外部ノ
刺衝ヲ以テ駭々其眞域ニ駭入スルハ即チ當今ノ風潮ナレ
ハ今後如何ナル程度ニ達シテ止ムカハ予輩ノ今日ニ預想
スル能ハサル所ナリ然レモ今ノ勢ヲ以テセハ原泉混々流
レテ不文未開ノ地ヲ潤ス者、如シ我國ハ嘉永年間ヲ以テ
其浸潤ヲ蒙リ文物利器ヲ目撃シテ二千有餘年ノ睡魔ヲ破
リ足チ歐米ノ地ニ入ル、モノ末タ其文物利器ニ刺激セラ
レスンハアラス是ヲ以テ長ヲ取り善ヲ摸シテ只管人心ヲ
刺衝センヲ之レ勉メ日常万般ノ事一切洋臭帯ヒサレナ
シ漸ク現今ノ有様ニ至リタルモノト云フベシ左レハ我文
明ハ自然ノ發生ニアラサレハ茲ニ其刺衝ヲ止メンカ忽チ
我國歩ハ停滯シテ永遠無究人後ニ墮若タラントス是レ予

輩カ敢テ秃筆ヲ振テ本題ヲ講セサルノ不得止以所也
 歐米ノ文物上達ノ國タルハ世ノ共ニ許ス所口誰レカ之ヲ
 稱シテ不文ノ國ト云ハンヤ人或ハ本邦ノ現狀ヲ以テ古ヘ
 野蠻ノ舊套ヲ脱シ全ク西洋ノ新文明ト伍スルモノ、如ク
 思惟シ獨身獨行文明ノ真域ニ駭入スル其自然ニ放任シテ
 可ナリト思ヘ誤ルヘシト雖我位置ハ未タ以テ歐米ト比ス
 ヘカラス我學ハ未タ以テ歐米ト競フ可ラス洵ニ自然ノ進
 行ニ放任スヘカラサルモノ在ツテ存スルナリ故コ予輩ハ
 歐米ノ文物利器ヲ輸入シ其利器ヲ具備シテ共進競馳東西
 相對スル時期ノ至ラサル限リ獨立獨歩ハ我利コアラサレ
 ハ飽迄歐米文明ノ事ニ依頼シテ他日我新文明ヲ開クノ元
 氣ヲ養成セサルヘカラサルヲ知ルナリ即チ余ハ刺衝ノ力

ンヲ欲シ茲ニ其力ヲ論

刺衝ノ力

至

次第ニ文明ノ事物ヲ摸ス

物利器ヲ目撃シ

ノ吾ニ渡

商ノ

ルニ至リタリ是レ鎖國閉港ノ議アルニ係ハラヌ敢テ他邦ノ獎勵ヲ待タズ海外諸邦ト條約ヲ締盟スルノ有様ニ至リシ者ハ予輩何レノ點ヨリ觀察スルモ開國ハ内外刺衝ノ成果ナリト云ハサルヲ得サルナリ論者尙ホ之ニ異說セント欲スルカ若シ異說セント欲セハ胸中ヲ吐キ盡シ異說ヲ明キ盡シテ而後ニ得ル所ノモノハ必ス予ト同一ノ說ナランノミ

(未完)

左ノ紀行ハ愛友共進會ノ客員森鐵五郎氏カ客年九月一日安塚村天顯寺ニ於テ同會員諸氏カ學術演會ヲ開カレタル節手記セラレタモノニテ客年既ニ本誌ニ掲載セントスレヒ奇書ノ都合ニ因リ今回録シテ以テ讀者諸君ノ瀏覽ニ供ス

東頸城郡人布施才之助永井清一郎杉本良伯等ノ有志者相謀リ學問上ヨリ地方退守ノ氣風ヲ改良スルノ目的ヲ以テ愛友共進會ヲ組織シ來九月一日安塚村天顯寺ニ於テ學術演舌會ヲ開カレテ聞キ出席セント欲ス偶侯野兄來訪曰ク余本日愛友共進會員諸士ノ招キニ應シ安塚ノ演舌會ニ臨マントス君幸コ同行セラレヨ余曰ク諾哉乃チ戸ヲ出ス此日ヤ雨天車ノ不便ナルヲ知リ徒行シテ相包村ニ到ル比降兩頻ナリ戸野目村ノ農家ニ一休シ談偶刀劍ノ事ニ涉リ遅刻ノ故ヲ以テ道ヲ轉シ余郷里神田ニ由テ發シ錦山ノ麓ニ倒ル比雨益降り路愈々泥濘殆ント行歩ニ苦ム錦山ハ土人稱ノ古城趾ナリ云フ眺望絶佳ナル山ナルヒ玄雲濛々ノ間

ニ經過シ兄コ此山ノ風景ノ愛スヘキヲ知ラシメサルハ遺憾ナリキ午後八時暫ク生家ニ入ル家人欣然余コ兄ヲ導カシメ雨衣ヲ脱シ酒ヲ命ス宴將ニ耐ナル比家嚴筆硯ヲ携ヘ來ツテ書畫ノ寄合會ヲナシ或ハ兄刀劍ヲ好ムヲ以テ所藏ノ鈍刀及ヒ書畫ヲ出シ示ス座ニ友人中州日ヲ送ルノ詩篇アリ即チ客年在京中州ヲ博寄チ書ス
匆匆一別已三年。遠在天涯獨病然。耻我疎才按筆硯。知君繡口富佳篇。花農日々耽詩酒。雪案螢燈學座裕。最厭紅塵々裏客。夢飛中州翠罪邊。兄乃余ハ韻ニ攀ス
(以下次號)

○ 觀蜘蛛記

蜘蛛トハ何ソ曰ク其形殆ント瓢ニ足ヲ補フカ如ク其目八其腺六而シテ性能ク堪忍能ク人言ニ訓レ能ク晴雨寒暑ヲ

豫知スル一小奇虫也予常ニ斧斤ヲ携ヘテ山林ニ入ルヲ業
トス故ニ或ハ其異常變態ニ感スル數々也而シテ其蚊蠅ヲ
捕フル狀ノ如キハ其精巧實ニ驚ニ堪ヘタリソノ捕具ノ結
構ヲ見レバ六腺ヨリ各一千箇都テ六千線而シテ肉眼ヲ以テ
之ヲ見レハ僅ニ一細粘線ヲ紡出ス之ヲ以テ最初樹々ノ間
其要徑ヲ經シ而シテ其中央ニ一ノ圓網ヲ營ム時ニ或ハ他
物ノ爲メニ障碍摧破セラレ、モ敢テ撓マス尙ホ之ヲ經營
スル始ニ加フ成リテ而シテ身ハ其中心ニアリテ以テ之ヲ待
ツ偶々一羽虫ニ遭ヒハ直進以テ之ヲ白幕ニ包縛ス而シテ
后賒々ニ之ヲ倉廩ニ貯ヘ以テ食料ニ供ス矣豈ソレ斯ノ如
キハ決シテ偶然ニアラサルナリ且ツ其身其中心ニ在ル者
ハ蓋シ其運動ニ宜シキヲ慮テナリ嗟々慧ナル哉蜘蛛迂ナ

詩文

ル哉蚊蠅人若シ之ヲ蜘蛛ノ多目ニ証セハ何ソ數百ノ眼目
ヲ備フル蠅コシテ好ンテ是ノ網ニ陷ランヤ然リ而シテ唯
リ蚊蠅ノ蜘蛛ニ於ケル而已然ルニアラス人間萬事亦皆然
リ恐レテ且ツ勸メサル可ン哉因テ記焉

山樵稿

○海樓望月

滄海水平猶有響銀河浪靜更無聲塵襟洗盡季秋夕心與月光
一樣清

○題禪僧行脚

三衣一鉢飾全躬雨笠蓋頭如步空不是胡僧行脚客何時求道

元吾宗

○秋晴

宿霧已收秋色晴碧天如水日光明前山散錦楓林晚鴻雁聲
呼友行

○秋風

悠然有響是風聲半夜吹窓動客情獨出山房林下步真如秋月
嶺頭明

○秋夜宿山寺

楓樹森々山寺邊紅塵不到意凄然衆僧入定無人語可愛月光
窓紙穿

○秋夜山行

紅葉飄風萬仞山又聞溪澗水潺湲遊人酩酊景光好共費詩魂

一望閣

○托鉢吟

緇士檻前持鉢去佳門窓下供錢臨三輪空寂如々躄總令世人
起信心

右 竜谷一夫

○竹莊閑居

長竿百尺七賢情獨臥涼風夢自清孤客叩門眠一覺語音和得
紫鸞聲

保倉數夫

正 誤

第九號雜誌第一ページ六行目蠻ハ蠻ノ誤三ページ十行目
(モノナリ)ノ(リ)ハ(シ)ノ誤同十二行目喬ハ(躋)ノ誤五ページ
十行目學ハ(字)ノ誤九ページ九行目削ハ(刺)ノ誤十ページ二
行目因果應報ノ下(チ)チ脱ス同行設ハ(説)ノ誤十二ページ七
行目坐スヨノ(ス)ハ(ロ)ノ誤同十一行遭過ノ過ハ(遇)ノ認十三
ページ八行目庭ハ(足)ノ誤
第十號雜誌中出問ハ(質問)ノ誤

東頸城郡大平村壹番地

發行所

學藝社

特主兼
編輯人
印刷人

布施才之助
永井清一郎

(驛遞局認可)

明治十八年九月廿八日發兌

禁賣買

學藝雜誌

第十三號

學藝社



目錄

- 永遠攻進論
- 學藝雜誌投票家諸君ニ望ム
- 安塚紀行
- 詩歌

川上英
黃鵬生
森生

學藝雜誌第十三號

論說

○永遠攻進論 承前 在東京 川上英

第二混沌ハ暗クシテ開闢ハ明文明開化ハ明ニシテ野蠻未
開ハ暗ク文明ノ人ハ明カニシテ未開ノ人ハ暗ラシ故ニ暗
者ノ未然ハ明者ノ已事暗者ノ夢景ハ明者ノ醒心暗者ノ岐
途ハ明者ノ定局是ニ繇テ以テ人ノ知ル能ハサル所ヲ知リ
繇テ以テ人ノ斷ス能ハサル所ヲ斷シ害ハ之ヲ以テ避ケ利
之ヲ以テ集ム明ノ已ム止ムヘカラサル所ナリ予ハ前項ニ
於テ未開人ノ交際ハ内外刺衝ノ結果ナル所以ノ理ヲ論陳
シテ開國ノ情况ヲ探究シタリ故ニ茲ニ文明人トノ交際ヨ

リ起ル所ノ者ヲ論述シ未開人ノ文明場裡ニ進入スル經務
ヲ學ハントス
前項陳ルカ如ク刺衝ノ力ヲ以テ未開國モ開港互市ノ勢ニ
至リタリトセハ締盟ノ諸外國ニ自家ノ物產ヲ輸出シテ彼
ノ物產ヲ輸入シ商賣場裡ノ景況漸クニ繁多トナリ海外人
ノ吾ニ寄留シテ營業スルモノアレハ我商人ノ海外ニ在留
スルモアリ往來愈頻繁ニシテ貿易次第ニ増加シ吾輸出ハ
僅ニ一二ノ產出物ニ止リテ而シテ彼ノ輸入ハ吾輸出ニ數
倍シ其物品ヲ問ヘハ概テ精功便利ヲ極ハメ價ノ廉ナル亦
實ニ意想外ニシテ如何ナル勤儉ニヨリ如何ナル思慮ヲ費
モス亦能ク爲シ得ヘカラス運搬費手數料其他一切ノ費用
ヲ附加シタル輸入物品ヲ購フハ廉ニシテ且ツ利便ナリ

ヲ以テ貿易ノ影響スル所遂ニ人ヲ刺衝シテ熱心開明ノ進
路ニ闖入シ貿易ノ不利ヲ復シ國ノ富裕ヲ増殖セシメテ希
圖スルニ至ル是レ本邦文明ノ階段ニ躑足シタルノ時期ニ
シテ假ニ之ヲ引用シ本論ヲ主張セハ開港以還海外ノ交通
大ニ開ケ洋外舶載品ノ利便ヲ見學問文藝ノ上達ヲ想像シ
テ欣慕ノ心胸間ニ浮泳シ蒸氣機關ノ精功奧妙ヲ見テハ愈
其輕便快活ニ歎服シ交際日月ニ緻密ヲ加ヘテ守舊ノ氣象
ハ頓ニ減却シ革新ノ精神ハ愈振作シテ商賣ニ交際ニ日ニ
繁雜ヲ増シ大便ヲ締盟諸邦ニ派出シ親シク海外諸邦ノ政
事風俗學問工藝商賣ノ狀ヲ視察セシメ以テ政體ニ學問ニ
工藝ニ風俗ニ大ニ改良取捨スル所アルニ至リタリ是レ此
ノ狀勢ニ至リシ原由ヲ尋ルニ開國ノ得策タルヲ曉知シテ

交際チ外國ニ結ヒ海外諸邦ノ文物利器ヲ瞥見シテ畢竟之
ニ移用スルノ必要ヲ感スルニ至リ學問ニ工藝ニ政事ニ商
賣ニ一切西洋文明ノ風ヲ取捨シ政治ニハ顧問ヲ聘シ學問
工藝ニハ教師ヲ雇フテ彼ノ長所ヲ傳習シ學生ヲ海外ニ派
遣スル等一ニ文明ノ進路ニ駁入スルハ駟モ及ハサル位ニ
テ其有様ヲ記載スル實ニ筆紙ノ能ク盡ス所ニアラス我國
ノ夫レ如斯盛譽ナル地位ニ所セシ所以ヲ考フルニ嘗々泰
西ノ文物利器ヲ觀察シテ之ヲ移用セントスルノ情火燃イ
テ禁スル能ハス遂ニ此有様ニ到リシノミ之ニ由リ此情態
ヲ推スルハ未開人ノ文明場裡ニ駁入スルノ光景ハ略ホ明
カナルヘケレハ更ニ一步ヲ進メテ此實勢ニ立チ至リタル
人性ノ止ム可ラサル所ヲ論述セシ

前ニ屢記スカ如ク利ニ感シテ便ニ移ルハ人ノ性情ナレハ
本邦人モ亦泰西ノ文物利器ヲ瞥見シテ遂ニ之ヲ移用スル
ニ至リタルハ明白ノコトニシテ毫モ不思議ノ感想ヲ抱クコ
足ラスト雖一步ヲ進メテ何故ニ人ハ文明ノ事物ヲ目撃シ
テ之ヲ移用セントスルカヲ學ハントス抑モ富貴ヲ欲シ安
寧ヲ希圖スルハ人ノ常情ニシテ事業ヲ興シ名譽ヲ博スル
ハ人ノ素願ナリ左レハ古來英雄ノ士カ世ニ經營セル成績
ヲ見ルニ專業ヲ成シ宿望ヲ達スル概テ非常ノ難苦ト努力
トヲ堪イ以テ目的ヲ達センコト切ナリシハ吾人ノ熟知ス
ル所ナリ此英雄ノ士ハ何等ノ責任アリ義務アリテ苦辛焦
慮寢食ヲモ安ンセス一テ其業ヲ遂ンコト是レ勉メシカ他
ナシ一片自然ノ至心能ク善良ノ刺衝ヲ蒙リ到底之ヲ傍觀

スルヲ能ハサラシムルナリ蓋シ此心タル如何ニ刈除セン
ト欲スルモ全ク刈除スル能ハサルモノニシテ之ヲ詳言セ
ハ單ニ力ノ上ニ差違ヲ存スルノニ故ニ人ニシテ此心弱キ
ハ其人必ス進取競争ノ意思無停滯不動ノ有様ニ沈論シ
文明ノ利器ヲ見テ知覺ナク外部ノ刺衝モ亦タ其身ニ感應
スルヲナカルヘシ然レモ如此ハ先ツ人類中一種ノ特例レ
ハ之ヲ以テ全般ヲ伺フニ足ラスト雖元來人類ノ進取競争
ハ其天稟トモ云フヘキモノニシテ強大至剛制抑スヘカラ
サルハ無論ナレハ彼ニ五分ノ長所アレハ吾亦之ト並進競
馳セントスルヲ毫モ疑フヘカラス固ニ天然ノ至心自ラ禁
スル能ハス善ヲ視テハ之ニ摸センヲ欲シ利ヲ見テハ之
ヲ得ンヲ欲ス眞ニ勢ノ然ラシマルモノニシテ又々止ム

ルキハ卑野ノ管見ヲ以テ廣大快活ノ文物利器ニ遭逢スル
コナレハ奇異ノ心胸中ニ往來ノ殆ント出ル所ヲ知ラサル
ヘシ然レモ日常其風ヲ習ヒ其利器ニ依頼シテ萬般ノ事ニ
當レハ漸次彼此相比較シテ愈彼ノ利ニ感シ此ノ迂遠ヲ歎
スルニ至ルハ人性ノ止ムヘカラサル所ロナリ見ヨ郵便電
信鐵道等ノ利器吾ニ具リシヨリ一瞬千厘能ク彼ノ事情ヲ
知リ一息數里飛鳥ノ如ク消息輕便ニシテ各地ノ動靜自ラ
詳カナリ之ヲ維新前ニ比スルニ急ヲ要スル事件ト雖報聞
ニ道ナク鐵路行程僅ニ三五時間ナルモノ行ク殆ト一句ヲ
費シ消息ヲ通セント欲セハ迅速ナリト云フモ頂上ニシテ
脚夫ノ健歩ノミ其差豈天淵ノミナランヤ西人此利器ヲ使
用シテ能ク光榮ノ貿易ヲナシ僅少ノ勤勞ヲ以テ日用ノ事

十
チ行フノ映活輕便ヲ致セハ我國人ノ彼ニ寓スルモノ亦タ
此利器ヲ使用シテ各其業ニ安シ實際ニ其實利實益ノ果シ
テ空シカラサルヲ曉知シ中心切ニ之ヲ移用セシムルヲ欲ス
ルニ至ル而テ之レヲ移用スレハ以テ貿易ノ不利ヲ復スヘ
ク以テ國ノ富裕ヲ増進スヘシ洋人ノ利ヲ得ルハ此利器ア
ルヲ以テナリ洋商ノ物品ヲ賤賣スルハ此利器ニ依テナリ
然ラハ吾ノ貿易上ニ不利ニシテ國ノ富裕ノ増進セサルハ
抑モ何ニ因テ然ルカノ疑問ハ自ラ解ケサル得ス何トナレ
ハ彼ハ利器ニ依テ業ヲ營ミ吾ハ啻タ些々タル双手アルノ
ミ即チ彼ノ費ス所三時間ナルモノ吾ハ六時間ヲ費シ彼ノ
要スル所ノ勤勞二人ナルモノ吾ハ數倍ヲ要スレハ其得少
ク其費多キハ論ヲ俟タス是ヲ以テ吾ノ生産ハ常ニ彼カ下

十一
ニアリテ彼ノ生産ハ恆ニ之ニ倍スヘシ即チ彼ノ製作ハ少
量ノ時ト財トヲ費シテ夥多ノ成果ヲ得吾レノ製作ハ夥多
ノ時ト財トヲ費シテ其成果少シト云ヘシ尙之ヲ詳言セハ
彼レノ十錢ニ賣得ル者吾ハ之ヲ二三倍ニ賣却セサルヲ得
ス人情総テ直ノ廉ナルヲ好メハ誰モ其廉ナルモノヲ措テ
未タ其不廉ノ物品ヲ購ハス左レハ吾製品ハ常ニ後ニニ賸
若シテ勢ヒ貿易上ニ不利ヲ生セサルヲ得サルナリ是時ニ
當リ貿易ノ不利ヲ復シ國ノ富裕ヲ増進スルノ策將ニ何レ
ニイツヘキヤ曰ク文明ノ利器ヲ移用シ大ニ勤勞ヲ省キ大
ニ消費ヲ減スルノ一策アルニ今夫レ利器ヲ移用ノ物品
ヲ製造シ以テ世間ノ需用ニ應スルハ彼ノ製作スル時ト
財ト均一ノ者ヲ以テ却テ其生産力ヲ問ヘハ輸入物品ニ比

シテ夥多ナリト云フヲ得ヘキナリ其故ハ經濟學ノ定則ニ由
テ生産力ナルモノハ其數料ニ由ルヨリモ寧ロ其位置ニ由
テ許多ノ變動ヲ生スルモノナレハ吾製造品ハ多分ノ運賃
ト手數料トヲ要セスシテ既ニ己ニ之ヲ賣捌クノ地位ニ在
ルモノナリ以テ直ニ世間ノ需ニ應スルヲ得ヘシ之ヲ再言
スレハ吾ノ製品ハ彼レノ製品ニ比シテ大ニ廉價ニ賣却ス
ルヲ得ヘケレハ遠洋船載ノ爲メ運賃ト手數料トヲ附加シ
タル製造品ハ勢ヒ不廉ニ至ルヲ以テ其賣捌ケ惡シク畢竟
彼ノ輸入ハ自ラ減少シテ遂ニ其跡ヲ絶スルニ至ルヘシ是
レ移用ノ最大利益ニシテ漸々歩ヲ進メテ此業ヲ擴充スレ
ハ益國ノ富裕ヲ増進スルノミニシテ未タ一毫ノ指毛アル
ヘカラス是レ吾輩カ常ニ信スル所ナルノミナラス理學ニ

照ラシテ決シテ疑フヘキモノニアラサルヲ知ルナリ
蒼々タル天下經濟ノ主旨ヲ解セス井底ノ管見ヲ以テ漫ニ
經營ノ大計トナシ暴論以テ余輩ヲ駁撃シテ曰ク此利器ヲ
移用シ之ヲ實際ニ使用スルニ就テハ國ノ財本ヲ外出シ國
ノ貨財ヲ輸出シテ以テ之ニ交換セサルヘカラス況ヤ財本
ヲ出シ貨財ヲ輸スレハ國ノ富有ヲ減損スルハ自然ノ傾向
ナリ已ニ國ノ富有ヲ減消セハ以テ殖産工業ニ從事スル能
ハズ以テ敵國外患ニ備フル能ハズ是レ國家ノ大計ニ於テ
決シテ行フヘカラサルナリ即チ文明ノ利器モ亦輸入スル
ニ足ラサルノ確証ニアラスヤト夫レ然リ豈夫レ然ランヤ
蓋シ文明ノ利器ニ依ラスノ國ヲ今日ノ世界ニ建ントハ到
底行ハルヘキ事柄ニ非ス其行ハルヘカラサル事柄ヲ以テ

國家ノ大計トナサントハ尙ホヨリ多ク行ハレサルコトナリ
 況ヤ利器ニ依ラスンハ殖産工業モ起スヘカラス敵國外患
 モ之ニ應スヘカラサルヤ茲ニ暫時ラク不祥ノ圖畫ヲ畫
 キ日清ノ間ニ不和ヲ釀成シ結局兵ヲ構フルニ至リタリト
 センカ支那ハ邦疆廣大ニシテ人員多ク日本ハ邦疆少ク
 テ人員少クナシ然レモ日本ハ已ニ文明ノ利器ヲ具ヘテ支
 那ハ未タ之ヲ有セス故ニ不和上騰懷裂シテイザ開戦ト云
 フニ至レハ我政府ハ各地ノ鎮臺ニ飛報シテ鐵路行程少カ
 二十四時間ニシテ先ツ兵ヲ沿岸ノ要港ニ送り各港護衛ノ
 軍艦ニ令シテ沿海ノ警備ヲ嚴ニシ水陸二兵ヲ搭載シ日章
 ノ旌旗ヲ懸ヘシテ數聯ノ艦體時ヲ移サス勿々清國ノ海港
 ニ侵入スル具ニ易々タルヘシ之ニ反シテ支那ノ如キハ未

タ如此活潑ナル運動ヲ爲スコトヲ得ス邦疆大ニノ利器具ハ
 ラス各地ノ鎮臺様ノ者ヲ召集スルニモ遅々タル行歩ニ止
 リ軍艦戒器モ亦堅牢精銳ナラサレハ見ス々々我軍ノ餌タ
 ル言ヲ俟スノ明カナリ是レ却テ國ノ大計ニ於テ忽ニスヘ
 カラサルノ確証ニアラスヤ又タ我財本ヲ移用スレハトテ
 將タ何程ノ損カアル只一時我運本ヲ彼ニ移シテ文明ノ利
 器ナル恒本ノ吾レニ到着スル時限ノニ暫ラク富裕ヲ減シ
 タルノ光景アリト雖具ニ一時ノコトニシテ移用前ニ蒙ルヘ
 キ不利ニ比スレハ固ヨリ齒牙ニ掛ルニ足ラサルナリ要ス
 ルニ運本ヲ恒本ニ變シタルカタメ利ノ直チナルトナラサ
 ルトノ差違ノミ大計ト命スルモ事々敷思フナリ之レ全ク
 經濟學ノ何ニタルヲ知ラサルニ坐スルモノト云ハサル可

十六
ラサルナリ以上ノ開陳ヲ以テ文明ノ利器ノ果タシテ其名
ニ負カサルヲ明カナレ上ハ此利器ヲ採用セハ果シテ如何
ナル位地ニ達シ得ヘキヤ思フニ今日西國ノ文明開化トハ
學術技藝商賈工業ノ熾盛ナルヲ云フモノニシテ此地位ニ
達セントハ曾テ吾輩畢生ノ目的ナレハ其文物利器ヲ移用
ノ彼我輕重相平均スルノ位地ニ到レハ予輩移用ノ責ハ先
ツ十分セリト云ヒ得ヘシ素ヨリ日常細目毫モ遺サスト云
フニアラス然モ亦タ萬般ヲ摸セントスルハ管ニ困難ナル
ノミナラス邦國ノ開明ヲ發達スル以所ニアラス故ニ單ニ
文明ノ利器ヲ備フハ予輩ノ素願トスル所ナリ而シテ其
時利器ヲ具フルニ於テモ往日桃源ノ小天地ニ安眠ノ唯我
獨尊交道ノ何タルヲ知ラス全ク固陋ノ海ニ沈論シタルノ

十七
ニ當リ直ニ歐米今日ノ文明ニ隨伴セヨトハ如何ニモ行フ
ヘカラサルヲナレトモ已ニ交通ヲ約シテヨリ今ニ三十年人
ノ知見モ往日ニ異レリ其異レル今日ニ於テ單ニ移用スル
ノミノヲナレハ敢テ難事トスルニ足ラス況ヤ他人ノ苦心
焦慮日夜勵精工夫セシ所ノ者ヲ移ツシテ吾ニ利用スル
ナレハ恰モ他人汗馬ノ勞ヲ奪取シテ自己ノ所有ニ歸スル
ト一船膏タ之ヲ奪フヨリ外ニ面倒ノ所爲アルナシ之ヲ要
スルニ彼レニ七分ノ長所アレハ吾モ亦タ直ニ其地位ニ達
シ共ニ文明ノ事ヲ行ヒ共ニ光榮ノ顔色ヲ分チ其地位ヲ同
フシ其幸福ヲ同フスヘキノミ嗚呼暗者ノ未然ハ明者ノ已
事暗者ノ夢景ハ明者ノ醒心暗者ノ岐途ハ明者ノ定局ト眞
哉予輩文明ノ利器ヲ見レハ其精巧絕妙實ニ怪訝ニ堪ヘス

然レ此之ヲ學理ニ照合シテ運轉活用ノ法ヲ學ヘハ整然トシテ規矩ヲ失ハス歐米文明進歩ノ速カナル思ヒ遣ラレテ戀々セサルヲ得ス左レハ予輩ノ未然ハ彼レノ已事熱心移用ノ事アルモノ豈人性ノ偶然ト云フヲ得ンヤ (未完)

○學藝雜誌投書家諸君ニ望ム

黃 鷗 生

學藝雜誌ハ如何ナル主義ヲ有スルカ布施君カ其第壹號ニ掲ケラレタル緒言ヲ一讀セハ知リ得ヘシ而シテ其文ヤ無慮壹千七百餘言ノ長キアルモ主旨ノアル処之ヲ約言セハ蓋左ノ數項ニ過サルヘシト信ス
一吾國人ノ風潮ニ化シテ文明ノ利器ヲ採用セサル事
一單ニ利器ヲ採用シテ其如何ノ理ヲ究メサルコト
一右ノ如キモノハ不智不明タルコト

一此不智不明ヲ脱スルハ學術ノ研究ニアリコト

此解釋ヲシテ大鵬ヲ失スルナカラシメシカ苟モ一言隻句ト雖學術研究ニアラサルモノハ此雜誌ニ登載セサルベキノ理由ナク又既ニ登載セラレタルモノハ一言隻句モ悉ク學術ノ研究ニ必要ナルモノタルヘキハ余ノ信ノ疑サルトコロ也我親愛ナル先覺ナル投書家諸君ニ學藝雜誌ノ衰頽ヲ好マル、コナク其擴張ヲ欲シ盛大ヲ希ハル、ナランカ生カ一事ノ深ク諸君ニ望ムアリ請フ之ヲ左ニ陳セン
情ヲ既刊ノ雜誌ヲ拜讀スルニ第壹號ヨリ第拾號ニ至ル論說ト云ヒ雜錄ト云ヒ漫言ト云フ其數貳拾有六七ノ多キモ或ハ多方人ヲシテ橫道ニ立寄リタル乎ノ疑ヲ起サシムルモノナキコアラズ東頸城論ノ如キ纔ニ其端緒ニテ中止シ

〔セラレタルコハ非ルヘシ〕保倉漁夫ハ請フ之ヲ論セント云ハレテ其儘立消トナリ意地論ノ意地モ中途ニテ挫折コ讀書カ學術研究ノタメ多少貴重ノ光陰ヲ費却シテ披讀シ漸ク佳境ニ入ラレトスル此ニ以下次號ノ四字ヲ以テ其姿ヲ隱サルハ實ニ遺憾千萬ト云ハサルヲ得ス俚語ノ所謂「骨折損ノ草臥儲ケ」ニ管ニ文意ヲ解シ得サルノミナラス却テ誤解スルコ至ル亦ナシトセス世間或ハ學藝雜誌ヲ目シテ幽靈雜誌トシ諸君ヲ以テ落語家流ヲ學フトス生ヤ竊ニ之ヲ愧ツ嗚呼學藝雜誌ヲシテ鄉黨ノ改明ヲ補ハレシムルモ諸君也反古一般ノ贊物ヲラシムルモ諸君也諸君ノ雜誌ニ於ケル關係ヤ親且密矣諸君深ク注意セサルヘカラス切ニ望ム諸君ノ投寄セラルモノハ論說ニマレ雜錄コ

アレ結局マテ讀者チレテ披讀スルノ榮ヲ得セシメラレシトシ抑モ生ヤ黃口ノ一頑生ヲ以テ此言ヲナス他ノ生意氣トシ「イキスギ」トナス深々之ヲ知レリ然レモ此事ヤ大ハ鄉黨ノ文化小ハ一身ノ發達殊ニ雜誌ノ信用諸君ノ名譽ニ非常ナル且直接ナル交渉ヲ有ス故ニ他ノ評語ヲ甘メ茲ニ一言スルヲ爾リ其文辭ノ拙劣ニ不遜ナル幸ニ寬恕ヲ仰ク

○安塚紀行

承前

森

生

嗟我人間廿七年 漫誇方寸氣豪然 詩曹空誦三千卷
 學術徒修一萬篇 奔走任他呼猛虎 閑居不妨如清禪
 啖麴飲酒是何事 樂在寶刀名画邊
 卅一日早朝路ヲ倉岡ニ取ル此日狂雨ノ爲メニ頗ル泥寧法定寺峠ニ到レハ潤滑足ヲ停メス行路極メテ艱頂上ニ至リ

顧ミレハ高田樹々ノ間ニ陰顯シ其景最モ住ナリ共ニ伏樹
ノ上ニ休ム又歩進ス餘病後兄ト共ニ往ク能ハサレモ勇チ
鼓シ氣ヲ剛マシ登リ横住村ニ下リ夫ヨリ一坂ヲ攀テ上リ
足疲レ氣阻シ俯睨スレハ則懸崖萬丈魂消人兄顧笑曰君山
野ノ間ニ生長シ何ソ弱ナル病後ノ故カ余曰然リ兄余カ爲
ニ急行セス仰望スレハ或山雲表ニ秀テ、其傍ニ巨岩突出
穹窿屋ノ如ク將ニ墮ントスルアリ其壯觀筆頭ニ寫ス能ハ
ズ下レハ則ニ安塚村ナリ其村端ニ會員杉本良治氏余輩ヲ
導テ會員小見佳治氏ノ家ニ入ル美酒嘉肴ヲ供シ或ハ諮詢
シ或ハ質問應問シテ酒肴トナセリ午後二時會場天景寺ニ
低レノ聽衆無慮數百名小見佳治永井清一郎布施才之助杉
本良治侯野時中ノ諸士交々演說ヲ終リ夫レヨリ懇親會ヲ

開カレ席上學問上ノ活發ナル演說等アリテ最モ盛ンナリ
翌日侯野兄ノ希望ニヨリ歸路ヲ平坦ニ取リ侯野布施僅ニ
三人ニテ松崎虫川ヲ過キ橋邊茶屋ニ休息蓮花ヲ嗅キ以テ
呑ム布施才之助君僕等ニ云フ曰ク得テ望ム可カラサルノ
語ニ綠木求魚ノ類ナリト我郷ハ山間ニシテ魚ヲ望ム可カ
ラス土地相當ノ者ヲ求ムル何ソ耻ツルニ足ラス(ニシテ)ノ
昆布卷以テ酒ノ肴トスヘシ二氏幸ニ之レヲ恕セト僕並ニ
侯野兄ト共ニ喜ンテ食シ或ハ語り或ハ謔リ以テ二時間余
ニテ別ヲ告ク布施君ハ川上ニ往キ浦川原ヲ指シテ急キ侯
野兄ト共ニ川ニ沿テ末野並木青野池ヲ過キテ神田ニ往キ
日暮歸商ス

〔終〕

詩歌

贈師範學校卒業生某

五洲猛士若桑信司

凌來歎苦眞男子、映雪囊螢何足難、吾有一語君看取、人間鴆毒是恬安、

偶成

同

氏

幕天席地其我生、到處醉險崎此情、若覺人間眞一夢、何關富貴與功名、

題湊川戰圖

橫田隆治

東魚躍海逆濤荒三百七旬、日光天下欲明楠氏績、湊川戰死斷人腸、

述懷

男子常欽楠子忠、最憎姦賊私其躬、生前豈計一家利、死後要留

千歲功

品海納涼

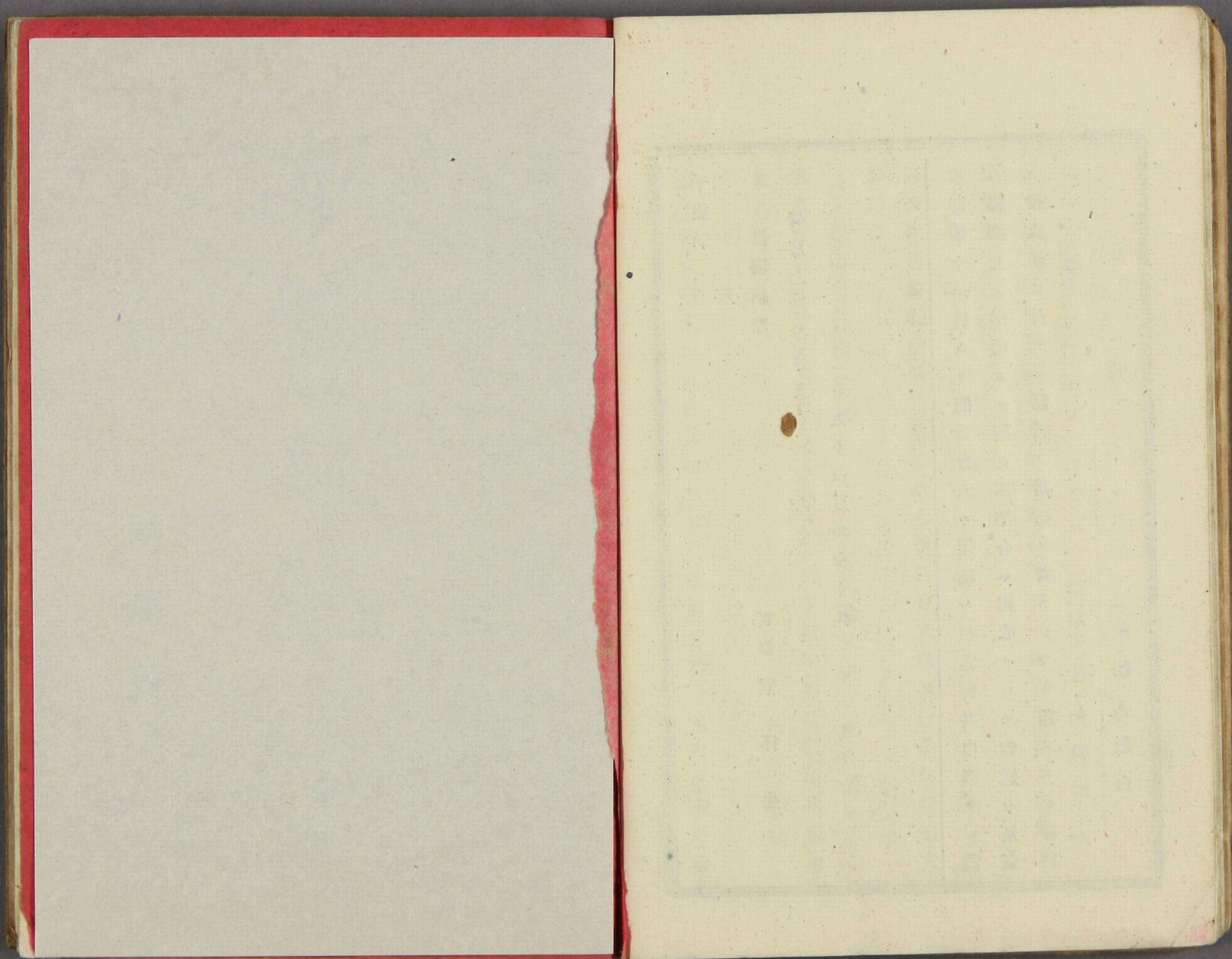
東京傾杯生

愛房上総みささくれ翠あそ

入こそまふぬ夏の夕くれ

本誌第十一號ヨリ配布方大ニ遅延ニ相成何共申譯ナシ實ハ經濟上ノ變動ヨリ斯ク不都合ニ相成リシモ尙進々景氣ニ相成候ニ付テハ諸君ノ高誼ニ背カンコトナ期スヘシ諸君幸ニ涼焉

編輯人敬白



(驛遞局認可)

明治十八年十一月廿八日發兌

禁賣買

學藝雜誌

第十四號

學藝社

目 録

○豈務メザルベクンヤ

○氣力養生論 在保川邊

○運動ノ効驗

○留別

布施才之助

壁 居 生

輔月堂主人

學藝雜誌第十回號

論 說

○豈務メザル可ケンヤ

布施才之助

今ヤ文化日ニ月ニ改良進歩シテ止マス昨日ノ是トスルモ
 ノ今日ノ非トナリ今日ノ是トスルモノ明日ノ非トナルハ
 開進世界ノ毎ナリ歲月ハ人ヲ俟タス文化ハ惰怠ヲ供ハス
 駸々トシテ開明ニ進ムノ日モ又足ラサルナリソレ不景氣
 ハ一小局部ノ不景氣ニシテ天下ノ大勢ヲ動カスニ足ラス
 不景氣ハ理財上ノ一小局部ノ困難ニシテ學問上ノ不景氣
 ニアラス何ソ不景氣ノ嘆聲ヲシテ學問上並ニ交際ニ及ホ
 シテ可ナランヤ豈ソレ謹マサル可カラス然ルニ其レカ爲
 メ無資力者ハ尙更ノ一財產家マテモ保守主義ヲ採リテ巨

外ニ眼ヲ注クヲサナサ、ルニ至リシハ實ニ嘆スヘキノ至
リナリ
東京ニ居レハ一日ハ一日ダケ智識ノ進歩ヲ致シ田舎ニ一
日蟄居スレハ一日ダケ智識ノ減縮ヲ來スノミヨシテ毫
議論ノ新ヲシキモノナク只益々陳々腐々コナルヲ覺エ何
セナレハ假令ハ東京ニ居テ其日ノ新聞ヲ閱スルヲ得ルモ
田舎ニ在ツテハ少クモ二三日ヲ後ル、コナラン新聞ヲ見
ルノ差ハ以テ人智進歩ノ遲速ヲトスルコ足ルヘシ此故
吾人ハ小生ニ安ニスルコナク須ラハ大志ヲ懷ヒテ爲スト
コロナクシテ可ナランサレハ毛利元就云ヘルアリ天下ニ
覇ヲラント欲シテ一隅ニ主タリ一隅ニ主タラント欲シテ
一國ニ主タリ一國ニ主タラント欲シテ一方ニ主タルト大

志ヲ懷テスラ尙且斯ノ如シ何ソ小事ニ戀々スヘケンヤ凡
ソ人ハ衣食足ツテ禮讓起ルモノナレハ小生ニ安ニスレハ
安ニスルタケノ愉快アラント雖ヒ徒ラニ小事ノ愉快ヲ樂
ンテ大愉快ヲ採ルコト忘ル可ケンヤ今ソレ保守主義ヲ採
リ小生ニ安ニスルトモ直接ニ來テ首ヘチ撃ツモノモナカ
ルヘシ亦退守セル人其レ自心モ只金力ニ依頼シテ安心セ
ンカ或ハ余足レリノ語ヲ以テスルト雖ヒ吾人ノ感服スル
能ハサルモノナリ何トナレハ直接ニ侮辱ヲ受クルノ愁ヒ
ナキヲ安心シテ間接ニ精神ヲ指撃サル、ノ事ヲ安心スヘ
カラサルモノアルナリ
余性小事ノ處シ易キ物ヨリ大事ノ理シ難キヲ處センコト
欲スルモノナリ又余頭ヘチ打毆スルモノアラシカ余甘ン

シテ之レニ應スヘシ或ハ人アリ余ヲ侮辱センカ善ンテ忍
ブヘシ然リト雖モ獨リ忍ブ可カラサルモノハ社會ノ事ナ
リ交際上ノ事ナリ又精神ナリ共ニ皆許ス可カラス何トナ
レハ小兒ノ戯レニアラサレハナリ
右ノ如ク果シテ然ランコハ吾人ハ益々不景氣ヲ晩回スル
ト同事ニ何ヲ節檢シテモ戶外ノ事ニ眼ヲ注テ務ムルトコ
ロナナル可カラス徒ラニ郷ニミ在リテ安心スルハ今日
ノ隆盛ヲ知ラサルモノナリ文明ノ風ニ中ラサルモノナリ
又無氣力ナルモノナリ何トナレハ其土地ニミ居リテ父
母ノ命是レ從フ時ハ風俗習慣ノ人心ヲ抑壓スルモノアツ
テ慷慨ノ有志モ學者才子モ自然野鄙トナリ思想ハ素ノ思
想ニシテ新説ノ出ツルナク卓論ヲ聞クコトナク音ニ俗學ニ

汲々トシテ日ヲ送ランノミ此故ニ早ク風俗習慣ノ抑壓ヲ
脱シテ早ク專脩スルトコロアルヘシ社會競進ノ時何ソ緩
々日ヲ送ルヲ憂センヤ進ンテハ天下ノ士君子ニ交ハルノ
易キアリ退テハ地方自治ノ急要ナルモノアリ我郡ノ少壯
ノ輩奮テ故郷ヲ去レ同病相憐ムノ餘リ此言ヲナス諸子ッ
レ是レヲ諒セヨ

○氣方養生論

在保川邊 塾 居 生

文明進歩ノ競フノ今日ニ在リテ最モ頼ムヘク有セサルヘ
カラサルモノアリ何ソヤ有爲ノ氣力是レナリ苟モ此氣力
ナキ時ハ文明進歩モ祝スルニ足ラス社會安寧モ喜フ可カ
ラス何トナレハ我學術ハ進歩セリ我事業ハ盛ンナルヲ得
タリトモ一モ二モ西洋人ノ爲メニ先鞭ヲ付ケラレ彼レノ

爲メニ社會ノ改良ヲ促カサル、寧アラシムニハ我國民ノ無
氣力免カレント欲スルモ得ヘカラス豈文明進步ノ先後ヲ
競フモノ、本意ナランマ此レ余氣力養生ヲ説カント欲ス
ル所以ンナリ
譽レテ世界ニ求メ有力ヲ天下ニ知ラシムルハ文明國人ノ
氣力ナリ之レ、反シ辱ヲ萬國ニ受ケ恬トシテ耻ヲサスルハ
未開國ノ常ナリ而フシテ文明ノ事物頭上ニ墜落シテ始メ
テ梧葉ノ秋聲ヲ感スルヲ例トス我國ハ既ニ已ニ時世ヲ見
破シ一度外交ノ開クルヤ文明國ニ往來シ彼國ノ書ヲ讀ミ
咄シヲ聞キ疾ク政治經濟法律物理ノ諸國ヨリ百般ノ事業
日ヲ追テ面目ヲ革メ彼ノ孔孟ヲ擒ニシ數百千年一夢一朝
ニ覺醒シテ以テ國恩ヲ報シタルモノナレハ今後第二ノ醉

民ヲ作ラヌ幾メタル活眼ヲ以テ文明ニ進マサル可キヲ
彼ト咄シヲナシ彼ノ書ヲ讀ミ彼國ニ行キ彼レヲ師トシ良
友トシ又信友トナルヘキハ素ヨリ論ヲ俟タスト雖モ其レ
此レヲ爲スニ先タテ油斷スヘカテサルモノハ氣力ナリ悔
テス悔ラレス供ニ進ムヘキナリ然ルニ西洋ハ我師ナリ彼
レハ我良友ナリトテ万事彼レニ精神ヲ委テ心醉シテ氣力
如何シテ忘却スルヲアラハ所謂漢儒生カ孔孟ニ心醉セシ
如クナルヤ明ラカナリ終ニハ良友果シテ良友ナラス却テ
無氣力ノ辱シメテ蒙ムルコト至ルヘシ慎マサルヲ得ンマ文
明ノ源ヲ彼レヨリシコレヲ傳習セシトテ元ヨリ形體ノ師
ニシテ精神ノ師ニ非テサルヲ青ハ藍ヨリ出テ、藍ヨリ青
シト我文明進步ハ西洋ヨリ來リテ西洋ヨリ文明ナルヘキ

ナリ氣力ノ將ニ爰ニアルヘキヲ信ス若シ歐米ヨリ彌兒牛
董ノ輩來テ我國ヲ攻ムレハ如何ン退テ降服センカ又進テ
此ト戰カハンカ何ソ退テ彼レニ從フコ違アラハ宜シク進
ンテ之レト一戰彼レヲ壓撃シ以テ氣力ヲ示ス可キ之則チ
文明ノ本旨ナリ文明國民ノ氣象ナリ素ヨリ舊物ヲ以テ彼
レニ敵對スルニ非ス文明ノ事物ヲ持チ文明ノ氣力ヲ養テ
彼レニ應スレハナリ此見易キ道理アルコモ拘ハラス文明
ノ事物ヲ排シ之ヲ退クルノ行アルカ斯ノ如キモノハ素ヨ
リ取ルニ足ラサル者トナシ暫ク之レヲ恕スルモ文明ノ風
致ニ乏シカラサル士君子ニシテ局部ノ利害ヨリ文明ノ事
物ヲ逆ヒ文明進歩ヲ害スルハ吾輩其是ナルヲ知ラス或ハ
其信スヘカラサルモノヲ信シ恐ル可カラサルヲ恐レ或ハ

一時ノ風聲ニ驚クコ昔時ノ戰士水鳥ノ羽音ニ驚キタルノ
例滔々然ラサルナシ何ソ無氣力ノ甚タシキヤ文明進歩ノ
方今何ヲ爲ニシテ文明進歩ヲ潮ケルカ何ヲ恐レテ無氣力
ヲ示スカ氣笛銃聲ハ文明國ノ當ニシテ文明國民ノ毎ニ爲
ストコロナリ
文明ノ銳進何ソ恐ル、コ足ランヤ況ンヤ水鳥ノ羽音ニ於
テチヤ見ヨ空氣ノ變シテ烈風ヲ來スノ時チ恐レテ清風ノ
日アルチ忘ル可ケンヤ若シ靜ナルノヨコテ風雨ナケレハ
時侯ノ腐敗ヲ來ス其方今ハ烈風霖雨既ニ治マリ將ニ清天
白日ニ接スルノ時ナリ宜シク銳意熱心之レニ處セサル可
カラサルナリ矣
○運動ノ効驗
嘯月堂主人

十一
一日友人オ之助布施氏余カ門ヲ叩ク余之ヲ一室ニ請シ火
爐ヲ煽シ煖ヲ採リ酒ヲ命シテ共ニ酌ニ歎談笑語終ニ運動
ノ効驗ヲ話シ時ヲ遷シテ去ル去ル時ニ望ミ余ニ求ムルニ
一文ヲ學藝社ニ投センコトヲ以テス明日ニ至リ同君使ヲ
馳セテ求ムルコト急ナリ余素ヨリ淺學短識倉卒ノ際筆ヲ
採ルノ材料ナシ乃チ昨日布施君ト談論セシ運動ノ効驗ヲ
題トシ余カ前年見聞セシトコロヲ記シテ以テ其責ヲ塞ク
看者乞フ幸コ不文ヲ咎メス意ノアルトコロヲ知レ
夫レ人ノ體軀タルヤ骨、筋、纖維、脂肪、皮膚等互ニ附着シテ組
織セルモノニシテ猶家屋ノ結構ニ於ケルカ如シ家屋ハ柱
壁、桁、梁等相應援シテ之ヲ保持ス而シテ其結構若シ脆薄ニ
シテ暴風烈風等ノ爲メニ其一部分ヲ破損スルキハ漸ク全

部ニ及ホシ遂ニハ傾斜崩頽スルニ至ル人ノ身軀モ亦内外
ニ於テ損傷スル所アルキハ他部應援ノ稱句ヲ失ヒ諸器其
官能ヲ止メ遂ニハ保生ノ力ヲ絶發スルニ至ル豈ニ慎マサ
ル可ケンヤ
人々ノ日用ニ供スル家具ハ之ヲ用フルキハ多少ノ損傷ヲ
受クルト雖モ人体ハ之ニ反シテ使用セサルキハ却テ損害
ヲ速ク例之止水ノ腐敗スルカ如シ今一場ニ水ヲ滿テ數日
間放擲シテ動搖セシメサルキハ其水終ニ腐敗シテ無數ノ
小蟲所謂腐水蟲ナルモノヲ生シ復タ用フヘカラサルニ至
ル彼ノ河海ノ水ノ腐敗セサルモノハ常ニ絶エス流動スル
カ爲メナリ故ニ人体ハ常ニ適宜ノ運動ヲ要スルモノナリ
今閑裕セル空氣ノ中ニテ運動スルキノ効驗ヲ擧グルキハ



第一 呼吸ヲ促カノ血液ニ多量ノ酸素ヲ與フ
 第二 血液ノ循環ヲ速ニス
 第三 神経系ヲ活潑ナラシメ
 第四 消化器ヲ衝動シテ多量ノ榮養物ヲ取ラシメ血液
 体中ノ諸部分ハ此ノ榮養質ニ富メル血液ニ衝動セラレテ
 其各種ノ官能ヲ旺盛ニシ其容積及ヒ生活力共ニ増加シテ
 全身ノ健康及ヒ強壯ヲ進ムルニ至ルト云フ身体ノ運動ヲ
 分ツテ通例實性運動(或ハ自動)虚性運動(或ハ被動)ノ二類ト
 ス歩行、走馳、跳舞及ヒ擊劍、漕船等總テ体中ノ隨意筋ヲ使用
 スル者ハ皆實性運動ニ屬シ又乘車、乘馬、鞦韆等他物ノ運動

ニ伴ヒテ起ル者ハ皆虚性運動ノ類ニ入ル
 歩行シテ其運動ヲ全身ニ達セシムルヲ欲セハ宜ク閑暇ノ
 日ニ歩行シテ自由ニ腕ト軀幹ヲ動スヘシ斯ノ如ク身体使
 用ヲ欲シテ歩行スルハ友人ニ伴ヒ若クハ其行ク處ノ點
 ヲ定ムルヲ可トス何トナレハ朋友ヲ伴フハ興味加ハリ
 行ク處ノ點ヲ定ムルハ運歩ニ倦マサルヲ以テ神經ノ激
 勵益盛ニナリ其効少ナカラサルナリ
 常ニ坐業ヲ操ル者若クハ身体柔弱ナル者ハ急ニ歩行スヘ
 カラス或ハ其歩行時間甚ク長カルヘカラス其ノ故ハ其体
 質全ク劇用ニ堪ヘ難キヲ以テナリ久シク坐業ヲ爲ス者幸
 ヒニ數日ノ閑暇ヲ得テ野外ニ遊行セント欲スルハ先ツ
 緩歩シテ其体稍々堅質ヲ得テ劇勞ニ堪フルマテハ必ス疾

行スヘカラス

留別

孤島樵夫

(未完)

呼弟呼兄既二年、一朝解携故山還、勿忘對酌歡談夕、前路蹉跎
保倉邊、

全

全

知らざりし今日此別もあはれぞも

さいわびぬるはるみだなりけり

紅葉山人

今日までも愛ひくせ過せしが

彌々今日を悔そは小川へ

日没山人

朝をまと思ひくし内にとや

日之西山あいら合の月



發行所

東頸城郡大平村壹番地

學藝社

特主兼
編輯人
印刷人

布施才之助
永井清一郎

